

不登校やひきこもりの子どもたちの居場所づくりに関わり約20年。現在、熊本市中央区の商店街一角で活動している。「ここでは、いろいろな人が、それぞれの人生の歩み方をしていく。今は学校に行けなくても、大丈夫だと思ってもらえる場所にしたい」と柔らかな笑みを見せる。

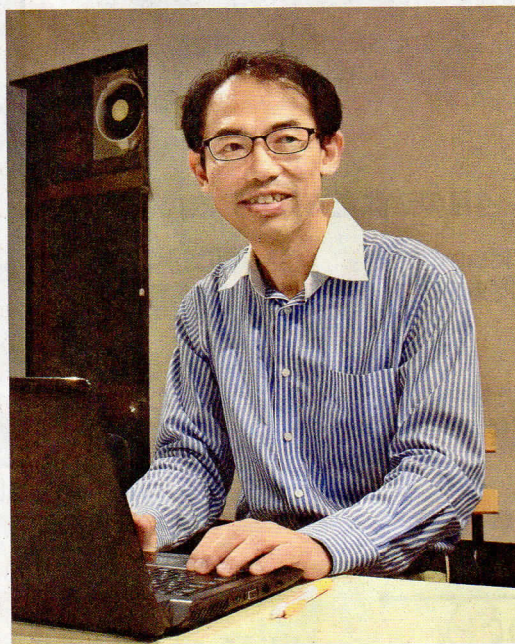


中学の頃、管理教育に嫌気が差し、学校をつまらない場所だと感じ、息を潜めるように過ごした。「なんで学校に行かないといけないのか、よく考えていた」と今の子どもたちに自らの過去を重ねる。

大学生だった1992年、ブラジルでの地球環境サミットを契機に起きた環境教育ブームに心を動かされた。環境や人権などに関する教育問題を扱う団体で働くことと上京。そこで、フ

将来を見つげられる場に

自信取り戻す体験が大切



フリースクール 地球子屋代表 加藤 千尋さん 47

「地球子屋は楽しみながら安心して育つことのできる場所です」という加藤さん

◇プロフィール◇ 熊本市出身。岡山県倉敷市の川崎医療福祉大学院修了後、ERIC国際理解教育センター(東京)に就職し、国際教育や市民教育、多文化共生などを研究した。現在は熊本市子ども・若者総合相談センター相談員も務める。地球子屋の問い合わせは(080・4286・2999)へ。

子飼商店街一角にある空き店舗兼住居スペース。3月に1度の商店街活性化イベントでは、駄菓子を使ったミニゲーム大会など子どもたちと考えた企画で参加している。

このほか、農作業の手伝い、廃品回収や福祉施設での交流といったボランティアにも汗を流す。

フリースクールなどで学ぶ子どもたちは、復学の意思にかかわらず、校長の裁量で学校の出席扱いにできる。

いま、新型コロナウイルスの感染拡大で、学校が休校になった影響か、学校に行けない子どもの保護者から相談が相次いでいる。

「学びたいのは、どこで、誰からなのか。それは、自分で選ぶことができる。大学に行って、就職してという生き方だけでなく、自分なりの進み方があっていい。子どもたちにとって、目標となる人や将来と出会える地球子屋でありたいと思っている。(松尾真里那)

フリースクールに通う子どもたちとも出会った。熊本市に戻り、「フリースクール地球子屋」を知った。小学生から30歳代まで幅広い年代が集まり、「支援を必要とする子どもたちだけでなく、OBとして関わろうとする人がいた」。

子どもたちの多くは進学や進級のタイミンクで復学からその話を聞かされた。男児は近所で見かけたこともある子で、ライトを手に父親と一緒に捜しに出た。1時間ほどたっても見つからず、そろそろ帰ろうと

する。一度意志を持って選択をしたからか、地球子屋に戻ってくる子どもはほとんどいないという。2010年に代表となり、11年目に入った。価値観を押しつけるのではなく、相手の感じ方を理解しようとする心がある。学校に行けない子どもたちは、親に迷惑をかけている

「『大丈夫』という言葉だけで、自己肯定感を持たせることは難しい。自分で決め、自信を取り戻せるような体験を何度もすることが大切なんですよ」

高3、不明3歳児を保護

熊本南署感謝状 夜道1時間搜索

からその話を聞かされた。男児は近所で見かけたこともある子で、ライトを手に父親と一緒に捜しに出た。1時間ほどたっても見つからず、そろそろ帰ろうと

種



核兵器廃絶 生平和大使の日、熊本市内

高校生 熊本で

県内の飛来予測

PM2.5 きょう 黄砂 少ない 6~12時 少ない



月齢 1.8 (旧暦5月3)

天気

球磨 (北) 天草 (東) 阿蘇 (北) 熊本 (北) きのう 午前 午後 夜 降水確率 0 10 10 0 10

阿蘇	本渡	人吉	荒尾	熊本	きょう
☀️	☀️	☀️	☀️	☀️	☀️
0	0	0	10	10	0